



# ファインスチール

Spring 2025

春



## CONTENTS

### 01 特集1

第23回 金属サイディング  
施工例フォトコンテスト

### 05 特集2

2024年度 金属系サイディング材と窯業系サイディング材の  
気象環境比較暴露試験について

### 07 ファインスチールを使った 建築設計例 351

川崎区的生活場

捨てない知恵・見せる配慮・重ね合わせる思慮 ——

設計：柿木 佑介 + 廣岡 周平 / PERSIMMON HILLS architects

### 11 建築めぐり

ウォートルス伝 35 丸山雅子

### 13 街でみかけるファインスチールの施工例 その59

一般社団法人 日本鉄鋼連盟

# 第23回 金属サイディング 施工例フォトコンテスト

(主催：日本金属サイディング工業会 後援：一般社団法人 日本鉄鋼連盟)

日本金属サイディング工業会が一般社団法人 日本鉄鋼連盟の後援により、2024年6月1日～9月30日を応募期間として実施した「第23回金属サイディング施工例フォトコンテスト」について、受賞された施工例の写真を中心にご紹介します。

## 新築部門 最優秀賞 / T hills 家 rn

### 株式会社 かんばら設計室 (栃木県)

この住宅は、緩やかな段丘に造成された住宅街にあり、道路面から約1mの高低差がある敷地に計画されました。外観デザインは、緑の丘の上に浮いたようにイメージしました。玄関は跳ね出しの外階段で、勝手口は庭のスロープの小径でアプローチします。道路沿いの芝張りの斜面や庭に咲く季節の花が、道行く人の目を楽しませ、中高木の樹々は、四季折々の表情で生活にも彩りを与えてくれます。外壁材に採用した金属サイディングは、これらの植栽を際立たせてくれる効果もあり、選んだ色味は重くなり過ぎずに浮いたフォルムをまとめてくれました。住まいを街から完全に遮断することなく、住まい手の生活を見え隠れさせ、住宅街を明るく開けた雰囲気とするコンセプトに一役買ってくれています。

ご依頼いただいたクライアント様や施工に携わった全ての皆様に感謝いたします。この度は、最優秀賞に選定いただき誠にありがとうございました。



神原 浩司さん, 神原 敦子さん

#### ●江口特別審査委員のコメント

一段高くなった空間にステージのように平屋の家がスタイリッシュに佇む、誠に美しい風景である。アプローチのスロープと階段も風景を損なわない。まるで中空を漂うようである。斜めに角度をつけた外壁と、張り出した軒裏のコントラストが明確で、影がよき仕事をしていて自然の懐にすっと入り込んでいる。エッジの効いた外観デザインは、金属サイディングならではのスタイリッシュな清々しい作品となっている。今回のコンテストには「スタイリッシュな」いわゆるカッコいい作品が多く見られたが、その中でもとびぬけた本作品は、最優秀賞に相応しいものとして評価された。

#### ●杉田特別審査委員のコメント

今回の新築部門の審査のキーワードは、「カッコイイ!!」でした。とてもお洒落で、シャープで、格好の良い作品が多くあったように思います。その中から、最優秀や優秀を選ばせていただきました。今回の最優秀とした作品は、シンプルですが、いくつかの立体を組み合わせた形状や、勾配を持たせた外壁など、デザインを工夫されていて、すてきで格好いい住宅だと思いました。ホワイトの外壁に大きな開口部を配置し、妻側はブラックの外壁がシャープな印象です。前面は駐車場でしょうか。アプローチもゆったりしており、羨ましい限りです。植栽も今後の成長が楽しみです。テラスが浮かんだようになっており、ちょっと腰掛けてみたくなります。写真としても、青い空を背景に、黒と白のコントラストがとても映えていて、植栽の緑もアクセントになりました。前回まで、二年続けて非住宅の作品が最優秀となっていました。今回は、住宅に良い作品が多かったように思います。今後も、さらに良い作品の応募を期待したいと思います。

金属サイディング施工例フォトコンテストは、日本金属サイディング工業会加盟8社が、全国の設計事務所・工務店・金物店・板金店の協力を得て、金属サイディング普及活動の事業として実施しているもので、第23回は全国から1,874作品の応募がありました。新築及びリフォームで建物の外装に金属サイディングを使用したものを対象とし、新築では建物の意匠性・高級感・コーディネート感覚など、トータルでバランスのとれた作品、リフォームでは『施工前⇒施工後』で優れたイメージアップの見られる作品を審査委員会で選考しました。その結果、最優秀賞2作品（新築・リフォーム各1作品）、優秀賞8作品（新築4作品・リフォーム4作品）、入選賞40作品（新築20作品・リフォーム20作品）が選ばれました。

また、東日本大震災発生以来実施している被災地に対しての義援金寄付は前年に引き続き総額187,400円（応募作品件数に応じた額）を日本赤十字社を通じ寄付いたしました。

#### [審査委員会]

- ・特別審査委員 江口恵津子（株式会社ヴェルディシモ代表取締役、一般社団法人日本フリーランスインテリアコーディネーター協会会長）
- ・特別審査委員 杉田宣生（一級建築事務所 HARUハル建築研究所 代表）
- ・当会審査委員 理事・幹事・技術委員・事務局

## リフォーム部門 最優秀賞 / 東区T様邸

### 株式会社TopRunner / ガイソー札幌店（北海道）

このたび、金属サイディングコンテストにおいて日本唯一の最優秀賞をいただくことができ、大変光栄に感じております。これもひとえに、日頃よりご支援いただいているお客様や関係者の皆さまのおかげと心より感謝申し上げます。

私たちは、単に美しい外観を提供するだけでなく、住まいそのものに価値を付加できるご提案を目指してまいりました。この受賞を大きな励みとし、さらに一歩進んだサービスと製品を通じて、皆さまに「驚き」と「感動」をお届けできるよう、社員一同全力で取り組んでまいります。

また、私たちのミッションである「満足から感動へ」を胸に、これからも地域社会に根ざし住環境のプロとして貢献していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



施工前



施工後



渡邊 誠さん(エリアマネージャー)

#### ●江口特別審査委員のコメント

ファザードは新築かと思われるほど、デザインが秀逸で、今回のスタイリッシュな作品が多い新築部門に入っても遜色のない作品である。お施主様は、機能が上がるだけでなく、このような美しいデザインに変貌されたことをすごく喜んでいるだろう様子がうかがえる。

玄関ドアの間と、出窓部分に共通の木のデザインと合わせたところが非常に効いている。

既存の外観デザインをうまく生かし、まるで違うイメージの家に変貌した。

機能性とデザイン性を一挙に上げた優れた作品である。

#### ●杉田特別審査委員のコメント

リフォーム部門の審査は、毎回悩みます。応募作品も多種多様です。今回は、土蔵造りのリフォームや、市松模様とした外壁リフォームなど、興味をそそる作品が多々ありました。

また、色については、ホワイトが多く使われている印象でした。

そのような中で、今回、最優秀とさせていただいた作品は、フォトコンテストの王道を行くような作品と言えそうです。

元の外壁は、窯業系サイディングでしょうか。かなり古く、痛んだように見えますが、張り替えによって、たいへんお洒落で、美しいファサードになっています。

出窓部分の木目調がとても良いですね。とても良いアクセントとなっていて、濃紺の外壁と相まって、建物を引き立たせています。張り替えによるリフォームの好例であると思います。



新築部門 **優秀賞**

**(株)D・LIFE**  
(岩手県)

新築部門 **優秀賞**

**(株)大成住建**  
(群馬県)



新築部門 **優秀賞**

**(株)神成建築計画事務所**  
(千葉県)



新築部門 **優秀賞**

**(株)トータルエステート・プロ**  
(愛媛県)



リフォーム部門 **優秀賞**

**(株)FCハウジング** (北海道)



リフォーム部門 **優秀賞**

**(有)星板工業** (福島県)



リフォーム部門 **優秀賞**

**ワコーズホーム(株)** (千葉県)



リフォーム部門 **優秀賞**

**ガイソー富山店** (富山県)



# 金属系サイディング材と窯業系サイディング材の 気象環境比較暴露試験について

建材薄板技術・普及委員会 基礎技術分科会では2024年度事業として市中材を中心に、金属系サイディング材30種、窯業系サイディング材12種を収集し、直江津（積雪地）、宮古島（亜熱帯）、旭川（寒冷地）の異なる環境条件下において暴露を開始。金属と窯業、形状、塗膜種、色相などで耐久性差の確認を目的としている。

注)直江津と宮古島は2025年1月開始、旭川は降雪の都合で2025年4月より開始予定。

## 1 試験体の概要

- サイズ：長さ300~400mm×幅200mm×厚さ15~18mm
- 詳細：金属サイディングサンプル

メーカー	塗膜種	形状	色名			総幅 (mm)	働き幅 (mm)	厚み (mm)	
			淡色		濃色				
A社	ポリエステル	スパン系	1	ホワイト系	2	ブラック系	332	300	15
	ポリエステル	エンボス系	3	ホワイト系	4	ブラウン系	422	385	
	フッ素	スパン系	5	ホワイト系	6	ブラック系			
B社	ポリエステル	スパン系	7	ホワイト系	8	ブラック系	420	385	18
	ポリエステル	エンボス系	9	ホワイト系	10	ブラック系	423		
	フッ素	スパン系	11	ホワイト系	12	ブラック系	420		
	フッ素	エンボス系	13	ホワイト系	14	ブラック系	423		
C社	ポリエステル	スパン系	15	ホワイト系	16	ブラック系	431	400	16
	ポリエステル	エンボス系	17	ホワイト系	18	ブラック系	433		
	フッ素	スパン系	19	ホワイト系	20	ブラック系			
	フッ素	エンボス系	21	ホワイト系	22	グレー系			
D社	ポリエステル	スパン系	23	ホワイト系	24	ガンメタ系	400	370	15
	ポリエステル	エンボス系	25	ホワイト系	26	ブラック系			
	フッ素	スパン系	27	ホワイト系	28	ブラック系			
	フッ素	エンボス系	29	ホワイト系	30	ブラック系			

### 窯業系サンプル

メーカー	品質	保証	色名			
			濃色		淡色	
B社	標準品	15年色保証	1	ネイビー系	2	ホワイト系
	ハイグレード品	30年色保証	3	ネイビー系	4	ホワイト系
C社	標準品	15年色保証	5	ブラック系	6	ホワイト系
	ハイグレード品	15年色保証 (色40年品質)	7	ブラック系	8	ホワイト系
D社	標準品	5年色保証	9	ネイビー系	10	ホワイト系
	ハイグレード品	30年色保証	11	ブラック系	12	ホワイト系

- 塗膜：ポリエステルおよびフッ素
- シール：金属サイディングのみエッジ部分を塗装でシーリング

## 2 暴露場所

### 1 直江津暴露試験場(シゲル工業株内)

新潟県上越市頸城区西福島401-2  
北緯37度11分、東経138度16分

- 最寄りの海岸から約1km



### 2 宮古島暴露試験場(JWTC)

沖縄県宮古島市上野字宮国1338-1  
北緯24度44分、東経125度19分

- 最寄りの海岸から約2km、海拔50m
- 海洋性亜熱帯気候で高温多湿、豊富な日射量、多量の高塩粒子など、環境劣化を誘引する環境因子の豊富な厳しい環境の暴露試験場



### 3 旭川暴露試験場(JWTC)

北海道旭川市江丹別町芳野167-1  
北緯43度52分、東経142度16分

- 標高137m、敷地面積7,400㎡
- 北海道でも有数の降雪地であり、冬季は1.5mほど積雪し、夏季および冬季の温度差は60度以上と、寒冷地の大気暴露試験場として大変厳しい気象条件を有する

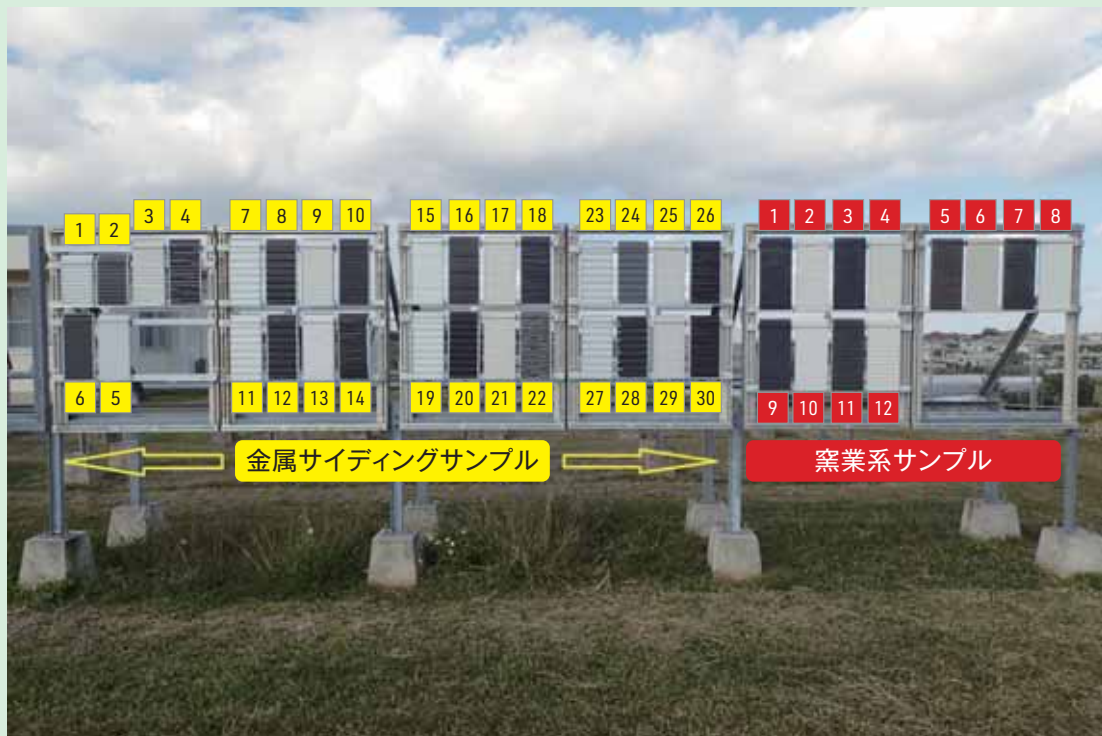


## 3 設置方法

- 試験体はパレットに固定し、南面90度にそれぞれ設置した。

注)以下の写真は宮古島暴露試験場。

### 2 宮古島暴露試験場(JWTC)



## 4 今後

- 現地観察は原則1年おきとする。なお、直江津や旭川など天候の影響を受ける地域は、この限りではない。
- 試験体回収は5年後の予定で、回収後は考察も含めて本誌で報告する。

ファインスチール  
を使った

建築  
設計例

351

# 川崎区的生活場

捨てない知恵・見せる配慮・重ね合わせる思慮

設計：柿木 佑介 + 廣岡 周平 / PERSIMMON HILLS architects

(撮影：写真はすべて、楠瀬友将氏撮影©)





今回紹介する事例は神奈川県川崎市にある。川崎市の地形は多摩川に沿って南北に細長く広がり、北部の多摩丘陵や生田緑地などの丘陵地、多摩川崖線と多摩川の間平坦な低地、臨海部の埋立地からなる。その中でも川崎区は最も南部に位置し多摩川の河口にあり三角州と埋立地という平坦な低地が特徴である。

「川崎区の生活場」は設計者でもある建築家の廣岡周平氏の建築設計事務所兼自邸である。

## 周辺地域

対象地はJR川崎駅から徒歩圏にある。川崎大師やスタジアムなどもあり様々な人々が行き交う駅前、市立病院や中学校などの公共施設、そして居酒屋などの小さな飲食店も点在する住宅地が広がる。

廣岡氏は妻と3人の子どもの家族5人で生活するための住宅と設計事務所を兼ね備えた自邸を設計するにあたり、子ども達が通う保育園のある従来から住んでいた地域内に土地を探した。川崎区は

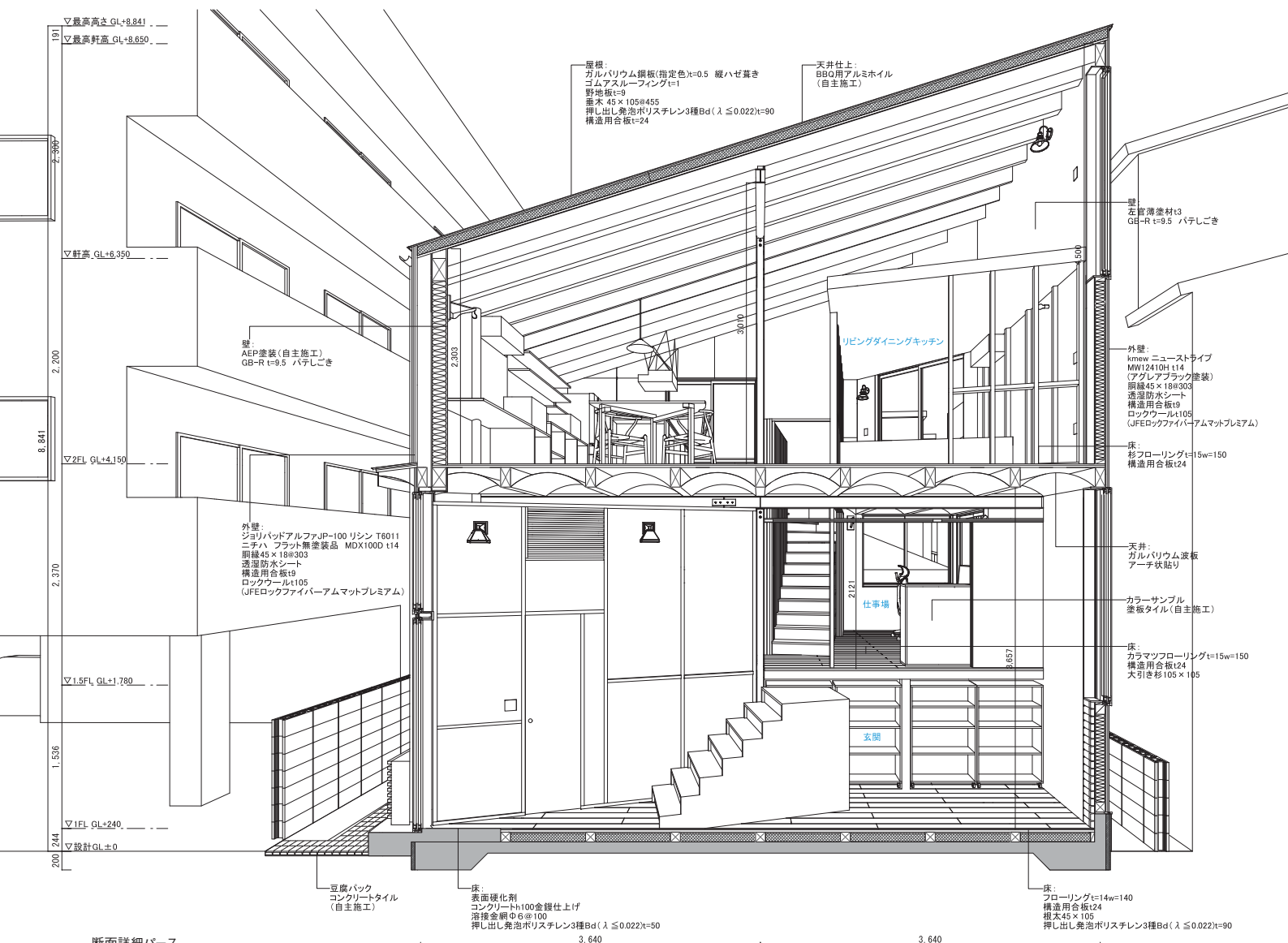


北側外観。建て込んだ住宅地の袋小路の奥に建つ。1階のモダンと2階のレトロな雰囲気は川崎区の町工場の外観をイメージした。

古くからある町工場や角打ちといったレトロな風景と新しく建てられた中高層マンションや戸建て住宅のようなモダンな建築、酒屋の前の道で呑む人たちと小さな子どもを連れた若い世代といった多様な人々の生活の営みが感じられる街だ。

## 敷地とデザイン

約83㎡の敷地は4軒の共有地の奥にあり公道に面していないことから、住宅の敷地としての課題が多く買い手がつきにくかった。「川崎区の生活場」の設計は



断面詳細バース



玄関より仕事場を見る。階段や収納棚、間仕切り壁、建具は廣岡氏が自ら制作。

建物だけではなく、建築できる土地にするための諸手続きから始まった。

廣岡氏は、周辺に点在する町工場のような、建物の面白さを感じられるデザインにしたかったという。建物の正面から外観を見ると、下部はガラス張りの現代的な様相でありながら、上部はレトロな雰囲気が漂うレンガ色の窯業系サイディング壁と、まさにレトロとモダンが融合している建物なのである。

## 空間構成

約7m四方の正方形を元にデザインされた建築の内部は、田の字の伽藍堂をイメージし最低限の壁で構成され、さらに二階の正方形の角を光の採り込みを考慮した角度でカットするという工夫もなされている。

また上階に居住空間を、下階に設計事務所を設けた理由であるが、先述したように対象地は多摩川の河口部分にあり多摩川氾濫低地に該当するため、大雨の際は1mほど水没する危険性があるそうだ。万が一の災害に備えて、家族が昼夜共に生活する居住空間をより安全な上階に設けたことは、デザインだけではなく地域の自然環境を考慮した空間構成であることは特筆すべきであろう。

### 一設計事務所部分

一階の設計事務所と住宅の玄関は共用である。平面的にはコンパクトな空間であるが45度にカットされた玄関は、中間階までガラス張りになっていることと同じく、中間階の高さの天井により広々としたイメージである。

一階奥正面の縦に大きく開いた窓もまた奥行き感を広げている。その窓の横の洗面スペースは寄木細工のような模様の壁、左官仕上げの土壁のような壁、モルタルのタイルに囲まれている。実はこの寄木細工に見える壁は木材のサンプルや端材を利用したもの、土壁に見える壁は石膏ボードの小口を積んだもの、モルタルのタイルは豆腐パックを型枠として自作したタイルだ。また立体的な空間を創出しているアーチ状天井のガルバリウム鋼板波板は、ホームセンターで購入して大工と一緒に取り付けた。玄関からすぐにある二階へと続く階段は移動式となっており、その奥は収納スペースがある。クラフト感あふれるアトリエとなっている。

### 一住居部分

二階の住居スペースは階段を上ると北側にリビングダイニングキッチン、南側に寝室や子どもの学習スペースとなっている。住居部分居住スペースの天井は一階とは異なり南側が高く北側が低い、傾斜の

ある形状で梁の見えるデザインである。開口部は各面にあり、北側は玄関上部にあたる目線の高さになる横長の窓、南西の角をカットして設けられた立ったときに目線の高さになる縦長の窓、南側は上部に設けられた天井までもの高さの窓、南東の角は45度でカットされ寝室に面する窓と室内に光を採り込むための窓が上下に分かれており、東側には縦長の窓が設けられている。それぞれの窓は隣家との高さ、空や周辺建物の見え方などを考慮して配置されている。また室内の壁は白色、青色、レンガ色、黄色などの面がある。これは隣家の屋根や壁の色など周辺の窓から見える色と同じ色を室内に採り入れることで、内外の繋がりを感じられるようにしたという。

住居スペースの家具や収納スペースも殆ど自作であること、隠さず生活感を見せる収納であること、壁には子どもたちの作品や近所の公園で拾った落ち葉を飾るなど、潔く日常生活を表に出すことで雑然さや野暮ったさはなく、むしろお洒落なカフェや美術館のような空間となっている。

また梁と梁の間にアルミホイルが貼ってあるが、これは光が反射されることにより室内で様々な光の演出を楽しむことができる工夫である。二階の南西角をカットした部分は一階事務所の洗面スペースを天窗とすることで、トップライトとなり下階に光を導いている。

「生活場」の建物デザインや空間構成から得られた知見は、

- ・身の回りにあるものを捨てずに再利用することの面白さとして「捨てない」行為
- ・美観を意識して隠すことよりも日常生活を楽しむ「見せる」行為
- ・統一感にこだわらず多様な素材（建築素材だけではなく光や風景など）を組み合わせる「重ね合わせる」行為

であり、これを具現化するのには建築家としてだけではなく生活者としての知恵や配慮や思慮といった美意識も必要であろう。

## ガルバリウム鋼板の魅力

今回の事例でガルバリウム鋼板は一階天井と建物の屋根に使用されている。一階天井で使用したガルバリウム鋼板波板は、工場をイメージしたデザインでありアーチ状の形をつくりやすく、内装材としても利用しやすかったということだ。また見上げる場所や角度によって光の見え方、反射面の模様やラインが違って来る面白さ、清掃も簡単であり、設計者としても居住者としても使いやすく、建築素材としての魅力を引き出してくれたそうだ。しかしDIYに適した素材であると感じた一方で、細かい切断などは素人では難しく、専門の技術が必要であることに気づかされたという。



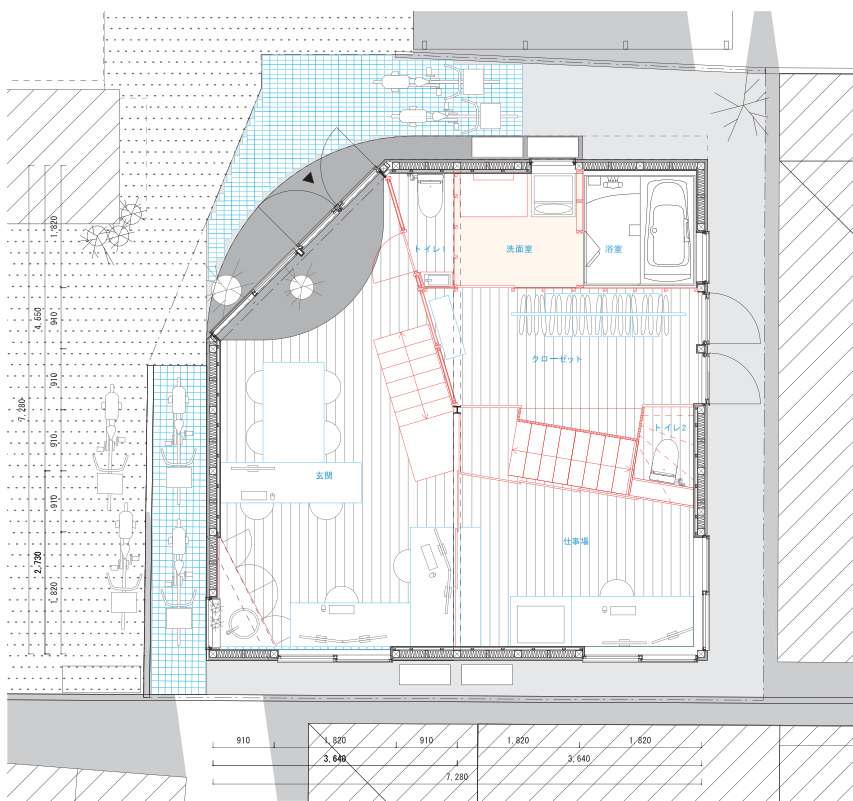
リビングダイニングキッチンの西側を見る。内壁の色はそれぞれの開口部から見える周囲の外壁の色と合わせ、外部を内部へと引き込んだ。

## 価値の重なり

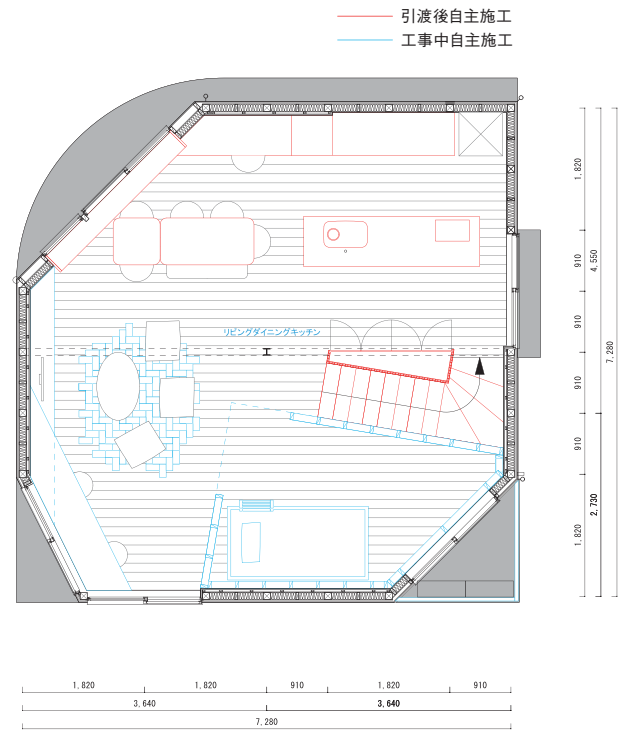
廣岡氏の建築は「価値が重なることは豊かなことだ」という考えに基づいている。「重なることがポイントであり、異なる価値が共存する集積体としての価値に興味がある」という。この「川崎区的生活場」の周辺の多様な人々の生活感の重なり、年代や用途が異なる建物の重なりにも価値の重なりが秘められている。様々な素材を採り入れてデザインされた建物にもまた素材や色や用途や内外の価値の重なりを感じることができる。

また廣岡氏は建築家として「生活の見える空間」として『道』に着目しており、道路計画からの住宅地デザインではなく「『道』は建物や樹木で囲まれた空間、地域性を反映する空間、住宅の色や形がバラバラでもそのバラバラを繋げる空間、そして建物の中と外を繋げる空間」という価値を結びつけて、価値の重なりを創出する空間としての『道』の可能性を語ってくれた。

価値の再解釈を行うことや価値の解釈が変わることを柔軟に意識して設計し続ける建築家が、今後の建物や街をどのように変化させていくのか楽しみである。



1階配置平面図



2階配置平面図

設計：柿木 佑介 + 廣岡 周平 / PERSIMMON HILLS architects

株式会社 パーシモンヒルズ・アーキテツク 一級建築士事務所 / Kanagawa: 〒210-0838 神奈川県川崎市川崎区境町6-7-3 Tokyo: 〒166-0003 東京都杉並区高円寺南2-45-18ラポビル2F Osaka: 〒573-0065 大阪府枚方市出口5-13-9 [e-mail] persimmon.hills.architects@gmail.com [URL] http://www.persimmon-hills-architects.com

レポーター：東京大学 大月研究室 深見 かほり

ウォートルス伝 35

# アーネストの気質

## —— 広い心とおもてなしの心

藤森研究室

担当 丸山 <sup>もとこ</sup> 雅子

アーネスト・ウォートルスは、当時の新聞にたびたび取り上げられている。記事は鉱山事業の内容や進捗にとどまらず、彼の性格や価値観、趣味や社交にまで及んでいた。「テルライド・ジャーナル紙の紙面を見れば、アーネスト・ウォートルスが今どこにいるかは一目瞭然だ。アーネストがデンバーにいるときはジャーナル紙が活気づき、彼が自宅にいるときは編集者が活気づく(How easy, how very easy, it is to locate Ernest Waters by the make up of Telluride's Journal. When Ernest is in Denver the Journal booms, when Ernest is at home the editor booms)」と評されるほどに、アーネストは地元紙にとって話題的であった(注1)。

彼の性格でとりわけ際立っていたのが、「広い心とおもてなしの心(generous and hospitable)」である(注2)。「アーネストの財布も家も、友人に常に開かれており、彼らがそれを活用してくれることが、何よりの喜びだった(his purse and house were open to his friends, and he was never better pleased than when they were availed of)」と語られるほどであった(注3)。

この気質が早くから表れていたことを示す例が、1878年9月の新聞記事にある。当時アーネストは、シルバートン近郊のグラッドストーンで働いていた。「コロラド放浪記(Gipsying in Colorado)」と題された記事によると、アーネストは旅人たちを次のようにもてなしたという。「ウォートルス氏は、真の英国風のもてなしで私たちを迎えてくれた。広々として趣のある丸太造りの家に足を踏み入れたときの喜びとまったくなかった。毛皮で覆われた心地よい椅子、美しい赤く塗られた広い暖炉、日没後に火を灯せるよう準備された薪—まるで家庭のような温かみがあった。本や新聞、その他の家庭的な調度品が並び、紳士たちは煙草を楽しみ、私には紅茶が運ばれてきた」(注4)。

初対面の旅人に対する広い心とおもてなしの心がにじみ出ているだけでなく、彼の住まいの洗練された雰囲気が伝わってくる。この家は、丸太造でありながら「州内で最も洗練された内装」と称された、後にアーネストがテルライドに建てた自邸を髣髴とさせる(注5)。もしかすると、この家が、テルライドの家の原型になったのかもしれない。

アーネストの生活スタイルについては次のように語られている。「ウォートルス氏には教養があり、本能的にも育ちからしても紳士であり、洗練された生活を愛していた(Educated, instinctively and by association a gentleman, Mr. Waters loved the refinements of life)」(注6)。

アーネストは、「自分のためだけでなく、他人のために財を築いた若いアイルランド人(a young Irishman who made fortunes for others as well as for himself)」であったと訃報で評されている(注7)。実際に彼は、自分で稼いだ私財の多くを、町に近代的な設備や堅牢な建物、必要な金融機関を整えるために投じた(注8)。

その一例として挙げられるのは、1887年7月に結成されたテルライド・クラブである。アーネストは、シルバートン時代からの仕事仲間であるR・F・リグリー(Roy F. Wrigley)(図1)らと共にこのクラブを設立し、自ら初代会長を務めた(注9)。

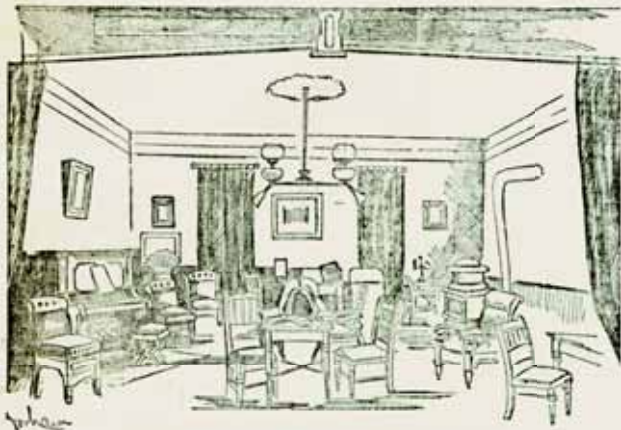


図1 ウォートルス&リグリーの広告  
ウォートルス&リグリーは、アーネスト・ウォートルスとR・F・リグリーが1881年にシルバートンに開業した、土木・鉱山技師の事務所である。  
出典:『La Plata Miner』1887年12月30日、4頁。

クラブは、アーネストとリグリーが共同で建てたテルライドのシェリダンビル内に設けられ、優雅な内装が施されていた。メインの部屋は、25フィート×60フィート(約7.6m×18m)の広さがあり、文学コーナーには主要な定期刊行物が揃い、音楽コーナーには高価なピアノが、娯楽コーナーには2台のビリヤード台が設置され、余暇を楽しむ場として充実していた。心地よい休息を提供する豪華なソファや安楽椅子もあり、そのほかに2、3の小部屋も備えられていた。町の商人や専門職に従事する50~60名ほどの選ばれた人々が会員となり、町の社交の中心として機能した(図2)(注10)。

このクラブは、おそらく、1884年7月に設立されたシルバートン・クラブを参考にしたものだろう。アーネストは、友人のJ・H・P・ヴォーヒーズやJ・G・タイラーと共に、シルバートン・クラブの発起人に名を連ねている(注11)。兄のアルバートを始め、親友のJ・A・R・ポーターや上述のR・F・リグリーも会員だった(注12)。

シルバートン・クラブは純粋に社交を目的としたもので、ビリヤード台が1台置かれ、東部から訪れる友人たちをもてなす場を提供していた。設立時の会員数は60名で、後にアーネストが設立したテルライド・クラブとほぼ同規模であった。シルバートン・クラブは最初の3年間で会員数が44名にまで減少したものの、1887年4月の時点でも、アーネストは会員としてクラブを支え続けた(注13)。



INTERIOR VIEW OF TELLURIDE CLUB.

図2 テルライド・クラブ

1887年に設立されたテルライド・クラブは、アーネストとR・F・リグリーが共同で建てたテルライドのシェリダンビル内に設けられ、優雅な内装が施されていた。  
出典:『The Rocky Mountain News』1890年7月20日, 17頁。

1889年5月、テルライドで二番目の銀行として開業したテルライド銀行も、アーネストが町にもたらした重要な貢献の一つである。銀行の建物は、テルライドよりも歴史の長い大きな町にも引けを取らないほど立派で、都会的な雰囲気を漂わせていた。カウンターや金庫、貸金庫などの設備は、堅牢であると同時に洗練されていたという(注14)。

それまで、サンファン地方(注15)の銀行家たちは月利2%もの金利を得ていたが、テルライド銀行の誕生によって、サンファンの人々はもはや質屋並みの金利を支払うことをよしとしなくなるだろうと、新聞は報じている(注16)。

「アーネストが惜しみなく与えた機会や支援のおかげで財を成した者が、テルライドの住人にも、すでにこの地を去った者にも大勢いる(here are many now in Telluride, as well as others who have gone from here, who owe whatever fortune has bestowed upon them, to the opportunities and assistance freely bestowed by Ernest Waters)」とも記されている(注17)。

アーネストは堅実な経営手腕を発揮し、コロラド州のどの鉱山経営者よりも高い日当を支払い(注18)、銀鉛の価格が上がった際にはサンファン地方で唯一賃金を引き上げた経営者であった(注19)。彼のもとで働く者が賃金を欲しければ、ただ事務所に行き請求すれば良かった(注20)。彼が発行した約束手形は、募金箱の中にあると慈善団体の資産にあらうと、必ず支払われた(注21)。彼は、日々接する何千人もの労働者や庶民から親しまれていた(注22)。労働者たちの支持を集められる人物として、地元の民主党の下院議員候補に熱心に推されたこともあった(注23)。

アーネストはサンファン地方で、友人たちとともに釣りや狩猟の遠征にたびたび出かけており、身体を動かすことを好んでいたようである(注24)。

1890年11月には、デンバー・アスレチック・クラブ(Denver Athletic Club)に入会する。このクラブは、デンバーで最も古い社交クラブの一つであり、急増する会員に対応するため新しいクラブハウスが建設され、1890年11月に完成したばかりであった(図3)。この完成に合わせて入会希望者が殺到し、アーネストもまた、当時の拠点テルライド

にありながら、300ドル(現在の価値で約150万円、注25)を支払って終身会員となった(注26)。

アーネストは、「金儲けの才能があったが、金は使ってこそ価値があると考えていた(Mr. Waters possessed the talent of money making, although he valued money only for what it could do)」と評されている(注27)。

彼は短い生涯で巨額の富を築き、それを自分のためだけでなく、町や友人のために惜しみなく分け与えた。それでもなお、彼の死後には大きな遺産が残された。

## Denver's Noted Clubs.



図3 デンバーの主なクラブ(1899年)

デンバーの当時の主な四つのクラブのうち、アーネストはデンバー・アスレチック・クラブ(左上)とデンバー・クラブ(左下)に所属していた。前者は歴史が最も古く、大規模なスポーツおよび社交を目的とするクラブだった。後者は、スポーツや社交にはあまり関与せず、裕福な会員が集まり、来客をもてなす場として機能していた。

出典:『The Rocky Mountain News』1899年1月1日, 29頁。

(注)

- 1 『The Solid Muldoon』1889年2月8日, 3頁。
- 2 『Telluride Republican』1893年5月12日, 2頁, 同5月19日, 3頁, 『The Rocky Mountain News』1893年5月16日, 2頁。
- 3 『Telluride Republican』1893年5月12日, 2頁。
- 4 『Colorado Springs Gazette』1878年9月7日, 8頁。
- 5 『The Solid Muldoon』1892年2月12日, 3頁。アーネストのテルライドの家については本誌2024年冬号を参照
- 6 『The Rocky Mountain News』1893年5月10日, 1頁。
- 7 『Denver Republican』1893年5月10日, 1頁。
- 8 『The Solid Muldoon』1891年12月4日, 2頁。
- 9 『The Silverton Democrat』1887年7月23日, 3頁, 『The Rocky Mountain News』1887年11月26日, 4頁。
- 10 『The Rocky Mountain News』1890年7月20日, 17頁。同1890年12月7日, 19頁, 『The San Miguel Examiner』1919年3月1日, 8頁。
- 11 『The Rocky Mountain News』1884年8月28日, 8頁。
- 12 『La Plata Miner』1884年8月23日, 3頁, 『The San Juan』1887年4月28日, 3頁。
- 13 前掲資料
- 14 『The Rocky Mountain News』1889年5月20日, 1頁。
- 15 コロラド州南西部のロッキー山脈に位置する鉱山地帯を指す。ユーレイ、テルライド、シルバートン、デュランゴなどを含む。
- 16 『The Solid Muldoon』1889年3月15日, 3頁。
- 17 『Telluride Republican』1893年5月12日, 2頁。
- 18 『The Solid Muldoon』1888年8月10日, 2頁。
- 19 『The Solid Muldoon』1890年10月24日, 3頁。
- 20 『Weekly Register Call』1886年8月13日, 2頁。
- 21 『The Solid Muldoon』1888年8月10日, 2頁。
- 22 『Telluride Republican』1893年5月12日, 2頁。
- 23 『The Solid Muldoon』1886年4月9日, 1頁, 同1888年8月10日, 2頁, 同8月24日, 2頁, 同9月7日, 3頁, 『Telluride Republican』1888年8月17日, 2頁, 同9月7日, 2頁。
- 24 『San Juan Herald』1883年11月15日, 6頁, 『The Rocky Mountain News』1885年9月13日, 7頁, 『The Silverton Democrat』1885年9月19日, 3頁, 同1887年9月3日, 3頁, 同9月17日, 3頁, 『The San Juan』1887年9月8日, 3頁, 同9月22日, 3頁, 同9月29日, 3頁, 『Silverton Standard』1891年9月5日, 3頁, 『Silverton Miner』1891年9月5日, 3頁, 『Telluride Republican』1891年9月11日, 3頁。
- 25 ネット上のインフレーション計算機(<https://www.officialdata.org/>, <https://westegg.com/inflation/>など)によると、1890年の1ドルは現在の約35ドルに相当する。現在のドル円相場を1ドル=145円とすれば、1890年の1ドルは現在のおよそ5000円に相当する計算になる。
- 26 『The Rocky Mountain News』1890年10月9日, 7頁, 同11月9日, 3頁, 同11月19日, 7頁, 同12月6日, 7頁, 同1899年1月1日, 29頁。

# 街でみかける ファインスチールの施工例 その59



## JA多気郡明和南支店

三重県多気郡明和町に本店を置く「JA多気郡」は、多気郡内3町(多気町、明和町、大台町)で事業を行っている。

JA多気郡として「農業・地域への貢献」「組合員・利用者へのサービス品質の確保・向上」を継続していくためには、「総合事業経営」を堅持していくことが必要であると考え、将来を見据えた「支店・事業所再編などによる事業再構築」を実施。2021年9月に「斎宮支店」と「明星支店」を『JA多気郡明和南支店』として統合移設を完了。2色展開の塗装ガルバリウム鋼板製屋根が特徴的な店舗は、来店者を暖かく出迎えてくれる。

JA多気郡は、地域になくてもならないJAであり続けるため、持続可能な経営基盤の確立・強化とともに、総合事業を基本とした「自己改革」にこれからも取り組んでゆく。





## 2 社会福祉法人 新潟市社会事業協会 新潟認定こども園

『新潟認定こども園』は、新潟県新潟市中央区にある定員125名の保育施設である。新潟認定こども園の歴史は古く、1920(大正9)年5月に前身である第一保育園が開設され、1931(昭和6)年4月「新潟保育園」に改称。2019(平成31)年4月からは幼保連携型認定こども園に移行し「新潟認定こども園」に改称。2022(令和4)年1月に川岸町へ新築移転。長年にわたり地域の子育て支援に携わってきた。過去には、1934(昭和9)年以降から現在までの事業成果が認められ、御下賜金を授与された。

白い塗装ガルバリウム鋼板製外壁に黒い文字の看板が目立つ温もりのある園舎では、0歳児～5歳児の子どもたちが毎日元気に過ごしている。「健康な心身の発達と豊かな人間性をもった子どもを育成する」を保育目標に掲げ、遊びに着目した保育と教育の中で、子どもたちの学びを深めることを大切にし、子どもの主体性が伸びるように、自ら考えたり工夫したりできる環境を整えている。また、たくさんの絵本と触れ合える「えほんひろば」を設けるなど、子どもたちが安全でゆったりとした環境の中で、健やかに成長できるような園舎となっている。



# FINE STEEL!

ボクらは  
「自在に変化」  
進化した鉄!

ボクらは「自在に変化」進化した鉄!

ファインスチールは、鉄の長所を最大限に活かしながら、これからの家と暮らしにふさわしい特長を合わせ持つ、現代建築の最適な素材として注目を集めています。新しい住まいで始まる暮らしをより良いものに。ファインスチールが理想のカタチを実現します。

ボクらの  
特長

地震につよい 表面がきれい 環境にやさしい

屋根材・壁材には **ファインスチール**



全国ファインスチール流通協議会

<http://www.zenkoku-fs.com>

